

1. 製品及び会社概要

- 1.1 **製品名**
ハイライト ブルーワセリン
- 1.2 **会社名**
株式会社 松風
- 1.3 **住所**
京都市東山区福稲上高松町 1 1
- 1.4 **担当部門**
技術部品質保証課
- 1.5 **担当者**
品質保証課長
- 1.6 **電話番号**
075-561-1112
- 1.7 **FAX 番号**
075-561-2272

2. 危険有害性の要約

GHS 分類

物理化学的危険性

- 引火性液体 区分外
- 自然発火性液体 区分外

人健康有害性

- 急性毒性（経口） 区分外
- 急性毒性（経皮） 区分外
- 急性毒性（吸入：粉塵および蒸気） 区分外
- 皮膚腐食性/刺激性 区分外
- 眼に対する重篤な損傷/眼刺激性 区分 2A
- 皮膚感作性 区分 1
- 生殖細胞変異原性 区分外
- 発がん性 区分外
- 生殖毒性 区分 2
- 特定標的臓器毒性（単回暴露） 区分 1（神経系、腎臓）
- 特定標的臓器毒性（反復暴露） 区分 1（呼吸器系）
区分 2（肝臓、精巣）

環境有害性

- 水性環境急性有毒性 区分 2
- 水性環境慢性有毒性 区分外

記載のないものは分類対象外または分類できない。

GHS 象徴要素



注意喚起語

危険

安全データシート

印刷日：2017-06-06

危険有害情報	<p>アレルギー性皮膚反応を引き起こすおそれ 重篤な眼への刺激性 生殖能または胎児への悪影響のおそれの疑い 臓器の障害（神経系、腎臓） 長期または反復暴露による臓器の障害（呼吸器系） 長期または反復暴露による臓器の障害のおそれ（肝臓、精巣） 水生生物に毒性あり</p>
注意書き	<p>[安全対策] 使用前に添付文書を入手すること。 全ての安全注意を読み理解するまで取扱わないこと。 保護手袋、保護眼鏡、保護面を着用すること。 この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。 粉じん／ミスト／蒸気の吸入を避けること。 環境への放出を避けること。 取扱い後はよく手を洗うこと。</p> <p>[応急措置] 気分が悪い時は、医師の診断／手当てを受けること。 眼に入った場合、直ちに流水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外して洗浄を続ける。 眼の刺激が続く場合は、医師の診断／手当てを受けること。 皮膚についた場合：多量の水と石鹼で洗うこと。 皮膚刺激が生じた場合、医師の診断／手当てを受けること。</p> <p>[保管] 密閉して、高温多湿を避けて保管すること。</p> <p>[廃棄] 内容を明確にして公認の産業廃棄物処理業者に委託するか、もしくは地方公共団体の規則に従うこと。</p>
国・地域情報	<p>国内法は第 15 章「適用法令」を参照のこと。</p>

3. 組成及び成分情報

- 3.1 単一製品・混合物の区別**
 混合物
- 3.2 成分及び含有量**
 親水ワセリン
 DBP ≒ 14 %
 その他
- 3.3 官報公示整理番号（化審法）** 一、3-1303
- 3.4 CAS No.** 8009-03-8、84-74-2

4. 応急措置

- 4.1 眼に入った場合**
 直ちに流水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外して洗浄を続ける。直ちに眼科医の診察を受けること。
- 4.2 皮膚に付着した場合**
 多量の水と石鹼で洗浄すること。刺激が生じた場合は、医師の診察を受けること。

4.3 吸入した場合

新鮮な空気のところまで体を毛布等で保温して安静にし、必要に応じて医師の診察を受けること。

4.4 飲み込んだ場合

清浄な水で口の中を洗浄する。気分が悪い場合は医師の診察を受けること。

5. 火災時の措置

5.1 消火剤

粉末消火剤、炭酸ガス消火剤、耐アルコール泡消火剤、乾燥砂

5.2 特定の消火方法

速やかに容器を安全な場所に移す。移動不可能な場合は、容器及び周囲に散水して冷却する。消火作業は適切な消火剤等を用いて風上から行う。

5.3 消火を行う者の保護（保護具等）

必要に応じて呼吸保護具を着用すること。

6. 漏出時の措置

6.1 人体に対する注意事項

関係者以外の立ち入りを禁止する。適切な保護具を着用する。

6.2 環境に対する注意事項

河川、水路や下水に流れ込まないように注意すること。

6.3 除去方法

おがくず、ウェス、砂等に吸収させて密閉できる空容器に回収する。

6.4 二次災害の防止

着火源を取り除くと共に換気を行う。

7. 取り扱い及び保管上の注意

7.1 取り扱い

皮膚、目との接触、蒸気の吸入等を避けるために、適切な保護眼鏡等の保護具を使用すること。室内で取り扱う場合は、局所排気装置等で換気を充分行うこと。

7.2 保管

容器は密閉して直射日光、湿気を避けて乾燥した屋内冷暗所に保管する。

8. 暴露防止及び保護措置

8.1 設備対策

局所排気装置、安全シャワー、手洗い・洗顔設備、洗眼器等

8.2 環境濃度

設定されていない。

8.3 許容濃度

DBP	日本産業衛生学会（2013年版）	5 mg/m ³
	ACGIH（2013年版）	LTV-TWA 5 mg/m ³

8.4 保護具

保護マスク、保護手袋、保護眼鏡

9. 物理的及び化学的性質

9.1 外観等

青色のペースト

9.2 臭い

なし

9.3 pH

データなし

9.4 融点・凝固点	38-60 °C
9.5 沸点、初留点および沸騰範囲	≒ 300 °C
9.6 引火点	データなし
9.7 燃焼または爆発範囲の上限・下限	データなし
9.8 蒸気圧	データなし
9.9 比重又は嵩比重	0.9
9.10 溶解度	不溶
9.11 η-オクタノール/水分配係数	データなし
9.12 自然発火温度	データなし
9.13 分解温度	データなし

10. 安定性及び反応性

- 10.1 安定性
 通常条件では安定。
- 10.2 反応性
 酸化剤と接触すると反応することがある。

11. 有害情報

- 11.1 急性毒性
 DBP:
 経口 マウス LD50 5289 mg/kg
 ラット LD50 8000 mg/kg
 ヒト LDLo 140 mg/kg
- 11.2 皮膚腐食性・刺激性
 データなし
- 11.3 眼に対する重篤な損傷・刺激性
 重篤な眼への刺激性
- 11.4 呼吸器感作性または皮膚感作性
 アレルギー性皮膚反応を引き起こすおそれ
- 11.5 生殖細胞変異原性
 データなし
- 11.6 発がん性
 データなし
- 11.7 生殖毒性
 生殖能または胎児への悪影響のおそれの疑い
- 11.8 特定標的臓器毒性（単回ばく露）
 臓器の障害（神経系、腎臓）
- 11.9 特性標的臓器/全身毒性（反復ばく露）
 長期または反復暴露による臓器の障害（呼吸器系）
 長期または反復暴露による臓器の障害のおそれ（肝臓、精巣）
- 11.10 吸引性呼吸器有害性
 データなし

12. 環境影響性

- 12.1 水性環境急性有毒性
 水生生物に毒性あり
- 12.2 水性環境慢性有毒性
 データなし

13. 廃棄上の注意

産業廃棄物として処理に関する法律、規則、条令に則り廃棄する。廃棄する場合は、内容を明確にして産業廃棄物処理業者に委託する。



14. 輸送上の注意

14.1 注意事項

荷崩れ等に注意すること。

14.2 国連番号・国連分類

非該当

15. 適用法令

15.1 消防法

非該当

15.2 労働安全衛生法

DBP として

名称を通知すべき有害物（法第 57 条の 2、施行令第 18 条の 2 別表第 9）

15.3 化学物質管理促進法

DBP として

第 1 種指定化学物質（法第 2 条第 2 項、施行令第 1 条別表第 1）（政令番号：354）

16. その他の情報

本記載内容は、現時点で弊社が入手した資料・情報・データに基づいて作成しておりますが、新しい知見により改定されることがあります。

また、注意事項は通常の取り扱いを対象としたものであって、特殊な取り扱いの場合は、その用途・用法に適した安全対策を実施の上、ご利用ください。

*）本製品は、歯科用として設計しておりますので、他の用途のご利用の場合は、その用途・用法に適した安全対策を実施の上、性能についても事前にご確認の上でご利用ください。